

未来に残る
もの。たい
だう。

STOP! CLEANCENTER!

私達は浄瑠璃寺近接地への奈良市ゴミ焼却場移転に反対します。

奈良市のあたらしいゴミ焼却場を、浄瑠璃寺近接地に建設しないよう求める署名にご協力ください。下記サイトからインターネットでも署名できます。
<http://save-joruriji.org/>



浄瑠璃寺と
当尾の里を
まもる会。



知っていますか？

奈良市は浄瑠璃寺のすぐ南、最短でたった三八〇メートルの位置にあたらしいゴミ焼却場を建設しようとしています。

※候補地の方角と距離に合わせ、現ゴミ焼却場の白煙を合成しました。



浄瑠璃寺

本堂（国宝）
三重塔（国宝）
浄土庭園（特別名勝）
九体阿弥陀如来像（国宝）
四天王像（国宝）

○ 浄瑠璃寺奥之院
瑠璃不動像

滝のすぐ上

候補地から浄瑠璃寺まで
最短で380mしかありません。

しかも浄瑠璃寺奥之院のすぐ上です

京都府木津川市

中川越笠置街道

クリーンセンター
奈良市新ゴミ焼却場候補地

中川寺跡

中川寺

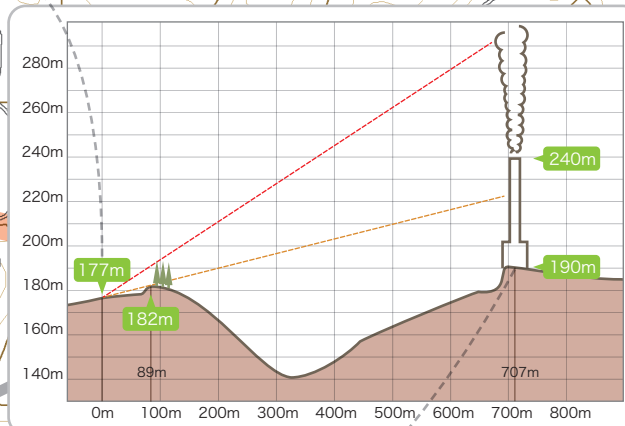
南山進流声明の源流
清酒の源流「僧坊酒」
南都仏教戒律復興の拠点

中ノ川

実範上人開基の中川寺跡が
造成で消滅してしまいます。

京都府 当尾磨崖仏文化財環境保全地区

わらい仏、弥勒の辻弥勒磨崖仏など、石仏が点在



おもて面は GoogleEarth の標高データに基づき、候補地の位置に合わせて現在のゴミ焼却場の白煙を合成した写真です。浄瑠璃寺庭園からは、木立がなければ煙突まで見えることでしょう。もし100mクラスの煙突が立てば、木立の上に煙突が突き出してしまう可能性があります。

奈良県奈良市

鳴川善根寺推定地



実範上人御廟塔

実範（～1144年）は、藤原実頼の末流、藤原顕実の第四子として生まれ、興福寺で法相を、醍醐寺で真言を、比叡山横川で天台を学び、広く諸宗に出入りして研鑽に励みました。はじめ忍辱山円成寺にいましたが、仏に供える花を探して中ノ川に入ったとき、ただならぬ場所だと感じたため、天永3年（1112）ごろ、この地に、法相、真言、天台の道場として中川寺を開きました。また戒律の復興に勤め、唐招提寺を再興し、東大寺戒壇院受戒式を定めました。

中川寺

中川寺は天永3年（1112）頃、法相、天台、真言の道場として、実範上人により中ノ川に開かれました。中川寺は南都仏教の戒律復興を先導し、その教学は他寺院に大きな影響を与えました。

高野山に伝わる声明「南山進流声明」は、元は中川寺が本拠でした。「進流」の名は、実範上人の弟子で声明に優れていた宗観（大進上人）にちなみ、中川寺の声明を「大進上人流」（進流）と呼んだことに由来します。中川寺は声明発祥の地でもあったのです。

ところが応仁の乱の後、大和国の覇権をめぐる争いに巻き込まれ、文明13年（1481）、中川寺は本堂を残し、一山焼き払われてしまいます。その後も再興されることなく衰微し、江戸時代には本堂と多宝塔のみの小さな寺院となり、明治に廃寺とされました。

しかしながら中ノ川の山中には、今も四角く整地された区画がいくつも残り、かつての壮麗な大寺院を偲ばせています。



新ゴミ焼却場は、中川寺跡を
跡形もなくつぶしてしまいます

中川寺跡を歩くと、階段跡と思われるスロープや、子尾根の上に三段に渡って階段状に作られた四角い区画など、人工的な地形の数々に、きっと誰もが驚かされることでしょう。これだけはっきりと古い寺院の痕跡が残る遺構もめずらしいのではないのでしょうか。四角く平らに整地された区画は、実範上人御廟塔のある谷の奥に多く残っています。実は谷の奥にも古い道があり、浄瑠璃寺を経て、加茂あるいは笠置へ通じています。浄瑠璃寺に伝わる古文書「浄瑠璃寺流記事」を見ると、中川寺僧侶の名前が何度か登場しますが、中川寺から浄瑠璃寺への行き来には谷の奥にある古道が使われたのでしょうか。この道は堀辰雄が有名なエッセイ「浄瑠璃寺の春」で歩いた道とも考えられています。

この地に新ゴミ焼却場が建設されれば、中川寺跡も古道も永久に失われてしまいます。